

新しい生活様式とは何だろうか（その2）

NO. 22で「新しい生活様式」について書きました。ちょうど緊急事態宣言が解除されたばかりの時でした。あの頃は、少人数のクラスで授業を行う分散登校で、半日授業、部活動もありませんでした。

今は再び感染者数が増加し、緊急事態宣言中に匹敵する数字ですが、学校は登校時刻を除き通常の教育活動を行っています。社会全体が「with コロナ」の覚悟で舵を切ったのは明らかですね。7月9日に開催された神奈川県対策本部会議では、大規模イベント等についても、今後順次制限が緩和されていく方向が示されました。先週末からプロ野球なども観客を入れています。

心配なのは、すでに一部の学校で生徒やその保護者、教職員の感染者の発生がニュースになっていることで、その学校では、濃厚接触者の特定や校舎内の消毒作業に伴う臨時休校など、とても神経を使う対応が求められています。マスクを着用して、手洗いなどを励行していれば、たとえ感染者の近くにいたとしても、濃厚接触者には該当しません。ただ、校内にいるときも、食事時はマスクをはずしますよね。また、運動部ではマスクを外して活動するとき、近くの人と声を交わすことがあるかもしれません。

緊急事態宣言が出ていたころの感染者と現在の感染者の特徴を大雑把に比べると、現在の感染者は換気の悪い飲食店や家族内で感染したケースが多いと私は思います。飲食時に会話することで飛んだ飛沫や、食器等の共用により感染していると思われます。本校でも昼食時は机を移動したりせず、全員が黒板の方向を向いて食べるように指導していますが、食事の時におしゃべりができないとは、なんて不幸なことでしょうか。最もリラックスしてコミュニケーションができる時間帯なのに…。

また、スポーツをするときは、たんに身体を動かすだけでなく、声で互いの意志を確認したり感情を表現したりするから楽しいのだと思います。黙ってスポーツをするのは、なんとも変ですよね…。

こうした様々な制約の中で、コロナウイルス感染を常に予防しながら暮らすのが新しい生活様式です。本当に意識改革をしないとこの生活様式には移行できません。でも私たちは移行しなければならないのです。まずは、「食事」と「スポーツ」の二つに注意してくださいね。

そして、図らずも感染してしまった人たちは、自分の2週間程度の行動記録をできるだけ細かく保健所等に報告しなければなりません。それが感染経路の特定やPCR検査をすべき濃厚接触者の特定につながるからです。だから、できるだけ登下校中の寄り道を減らし、シンプルな行動をすることになります。

- ・ 不必要な他人との交流をできるだけ行わない。
- ・ 近い人との間でも最低限の感染予防のマナーは守る。
- ・ マスクの着用と手指の消毒を忘れない。

みんなで頑張りましょう！